

2 各教育プログラムの説明

DP との関係



2-1 グローバル英語プログラム (GEP)

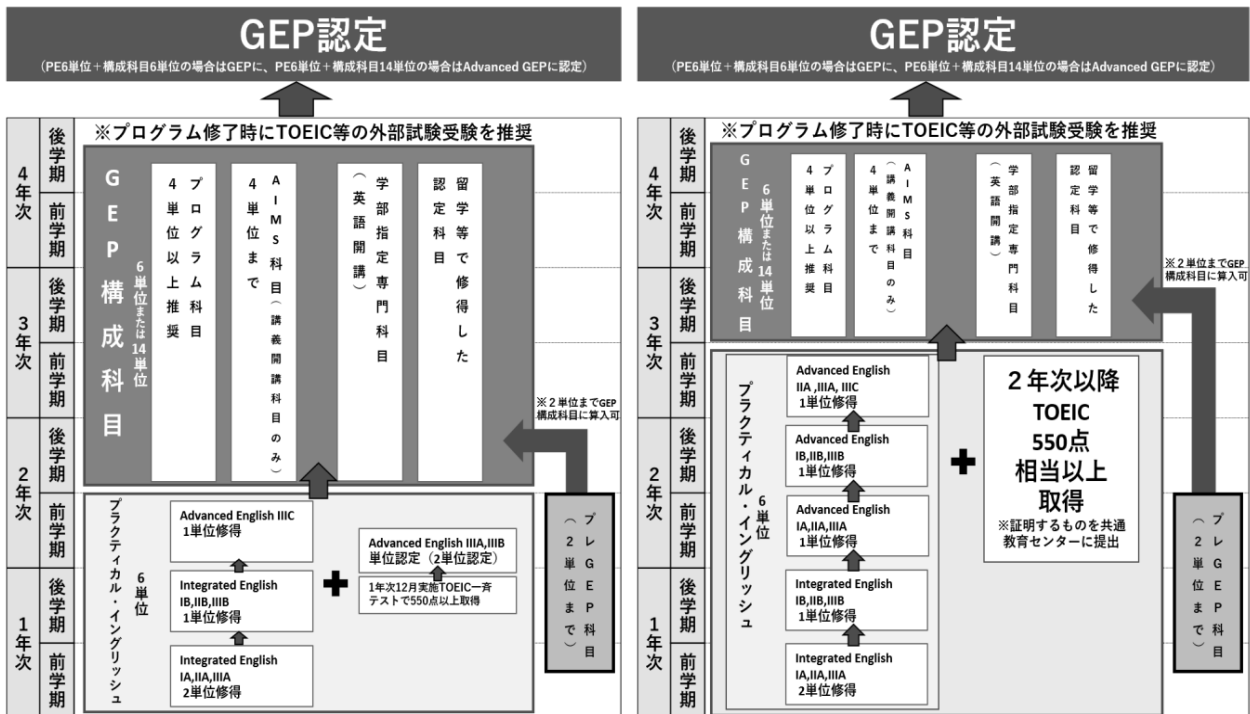
(1) 「グローバル英語プログラム」について

グローバル英語プログラム (GEP: Global English Program) とは、「プラクティカル・イングリッシュ」に加えて、GEP を構成する全学共通科目及び専門科目を発展的かつ系統的に履修し、学生が主体的に英語で学修を行うことを促進するプログラムです。学生のニーズに合わせて、4 技能の向上、専門分野における英語力の向上、留学への動機づけと準備、グローバル社会に対応するキャリア形成の意識向上を目指すプログラム科目を提供します。学生として、社会人として、研究者として国内外において実践的英語力を活かしてグローバルな視点を持って活躍できる能力を養成します。このプログラムの授業は、原則として英語で行います。

○グローバル英語プログラム (GEP) カリキュラムマップ

モデル1: 1年次の一斉テスト以降 (12月) ~3月に TOEIC550 点相当以上を取得し、1年次の3月末までに単位認定申請した学生

モデル2: 1年次の12~3月に TOEIC550 点相当以上を取得しなかった学生



(2) 「グローバル英語プログラム」で育成する英語力

このプログラムでは、ディプロマ・ポリシーのうち、特に① (世界の俯瞰的理解)、② (専門分野の学力)、③ (課題解決能力・コミュニケーション力)、④ (社会人としての姿勢) の4つを踏まえて教育を行い、以下の英語力を育成することを目指します。

- ・ 基盤教育科目で学んだ時事問題や自国の文化等について見解を表現できる英語力
- ・ 学部の専門教育で学んだ知識を前提として、専門分野の論文を理解することができる英語力、さらに、専門分野の研究発表 (口頭発表、論文発表) をすることができる英語力
- ・ 英語圏の大学で専門分野を学ぶことができる英語力
- ・ 企業で必要とされる英語力

(3) 「グローバル英語プログラム」の履修資格と修了証の要件

1) 履修資格

「プラクティカル・イングリッシュ」6単位修得かつ TOEIC550点相当以上を履修要件とします。

2) 履修手続

GEPの履修にあたっては、上記履修資格を満たした上で、2年次後学期から4年次12月までに「茨城大学グローバル英語プログラム履修届」(以下、履修届)に必要な書類を添えて、共通教育センターに提出してください(工学部の学生は工学部学務グループに、農学部の学生は農学部学務グループに提出)。必要書類は、履修届配付時に案内します。履修届の用紙は、共通教育センターで配付します。履修届を提出した学生は、表1のプログラム科目を履修することができます。令和3年度の開講科目については、別冊の「令和2年度大学共通教育開講授業科目一覧」で確認してください。

プログラム科目については、上記の英語力育成の観点から、4科目以上履修することを推奨しています。プログラム科目は、水戸地区、日立地区、阿見地区の各キャンパスで2年次後学期から開講されます。履修資格を満たした学生以外は履修できない科目です。プログラム履修者は、是非履修してください。

3) プログラム修了の要件

全学部生必修の基盤教育科目「プラクティカル・イングリッシュ」を基礎に、表1のプログラム科目(全学共通科目)、AIMS科目(全学共通科目)及び各学部が指定する専門科目(留学などの単位修得により専門科目として認定された単位を含む。)を履修し、下表の単位を修得した者を修了認定し、修了証を発行します。修了証は、上記履修届を提出した者が修了要件を満たした場合、その翌学期に発行します。GEPを修了した学生が、修了証発行後にAdvanced GEPの修了要件を満たした場合は、GEPの修了証に追加して、Advanced GEPの修了証を発行します。Advanced GEPは、下記のとおりGEPよりも修得すべき単位数が多い、より発展的なプログラムとなっています。

なお、プログラムの修了要件ではありませんが、プログラム修了時に英語力の向上度を測定する指標として外部検定試験(TOEIC)の受験を推奨します。

プログラム名	プラクティカル・イングリッシュ (1年次前学期～3年次前学期)	全学共通科目及び専門科目 (2年次後学期～)	合計
GEP	6単位(必修)	6単位(選択)	12単位
Advanced GEP ※	6単位(必修)	14単位(選択)	20単位

※ GEPの修了要件よりも全学共通科目又は専門科目から8単位多く単位を修得した学生にはAdvanced GEPとして修了認定します。

表1 GEP 構成科目

区分	授業科目	単位数	必修/選択	
G E P 構 成 科 目	基盤教育科目	プラクティカル・イングリッシュ Integrated English I A、II A、III A	2	必修(2単位)
		プラクティカル・イングリッシュ Integrated English I B、II B、III B	1	必修(1単位)
		プラクティカル・イングリッシュ Advanced English I A、I B、II A、II B、III A、III B、III C	1	必修(3単位)
	プログラム科目	English for Socializing	1	選択
		Reading & Discussion	1	選択
		Presentations in English	1	選択
		TOEIC & TOEFL	1	選択
		Academic Speaking	1	選択
		Academic Writing	1	選択
		Studies in Particular Fields	1	選択
		Studying Abroad	1	選択
		Bilingualism	1	選択
	Studies in Contemporary Japan	1	選択	
	AIMS科目	A I M Sプログラム科目のうち、講義科目として開講されているもの	1～2	選択 4単位までとする
	専門科目※	各学部開講の英語による専門科目(所属学部以外も含む)	1～3	選択
留学などの単位修得により専門科目として認定された科目		所属学部における認定単位数		

4単位以上推奨

- ・専門科目における GEP 構成科目は、表4のとおりです。
- ・留学などの単位修得には、単位互換で修得した科目も含まれます。
- ・1年次から2年次前学期に英語で開講されている基盤教育科目の一部を「プレ GEP 科目」として指定します。GEP の履修要件を満たし、GEP プログラム修了認定を受ける場合は、2単位までを GEP 構成科目として認定します。指定科目は表3のとおりです。

表2 全学共通科目の授業概要

これらの授業は、以下のような内容で開講が予定されています。

授業科目名	授業の概要	使用言語
English for Socializing	スピーキング力だけでなく、様々な国の人たちと英語で意思疎通を図り、人間関係を構築する際に求められるコミュニケーション力ならびにソーシャル・スキルなどを養成する。	英語主
Reading & Discussion	時事問題やアカデミックなトピックについての記事や論文などの内容を理解し要約できるリーディング力、それを基に論理的に自分の主張を組み立て主張できるディスカッション力を養成する。	日英併用
Presentations in English	主張を論理的に組み立て、かつ先行研究のデータを入れるなど客観性を持たせた内容に基づいて、聴衆にとって聞きやすく説得力のあるプレゼンテーションを行うのに必要な能力を養う。	日英併用
TOEIC & TOEFL	TOEIC で 800 点以上を目指すためのトレーニングを行う。また、(交換) 留学を視野にいれ、TOEFL (ITP) で 550 点以上を目指すためのトレーニングを行う。	日英併用
Academic Speaking	伝えるべき内容を論理的に組み立てる能力、プレゼンテーションやディスカッションなどで必要とされるアイコンタクトやジェスチャーなどを取り入れた相手に伝わるスピーキング力を養成する。	英語主
Academic Writing	英語でレポート、エッセイ、論文を書く際に必要とされるライティング力を養成する。実例を教材として効果的な構成方法や表現方法を学ぶ。	日英併用
Studies in Particular Fields	専門分野に関わる書物や論文を理解できる語彙力(特に専門用語) や読解力などの養成を通じて、特定の専門分野について英語で学べるようになることを目標とする。	英語主
Studying Abroad	留学する際に必要とされる様々な国における常識の違いや価値観の相違などを理解する力を養成する。	英語のみ
Bilingualism	グローバル社会におけるバイリンガリズム(2言語併用) の概念や考え方を言語学、心理言語学、第二言語習得理論など様々な観点からの見解を学ぶ。	英語のみ
Studies in Contemporary Japan	現在の日本について担当者の専門分野のトピックを中心に学ぶ。	英語のみ

表3 令和3年度「プレ GEP 科目」一覧

令和3年度に開講される「プレ GEP 科目」は下表のとおりです。

基盤教育科目

科目区分	授業科目区分	授業題目	単位数	対象年次
異文化コミュニケーション	人間とコミュニケーション	Cross-cultural Understanding: Japan and America	1	1
異文化コミュニケーション	人間とコミュニケーション	International Exchange	1	1, 2
異文化コミュニケーション	人間とコミュニケーション	Japanese Pop Culture A	1	2
異文化コミュニケーション	人間とコミュニケーション	Japanese Pop Culture B	1	2
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修 I (ブルネイ)	1	1
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修 II (ブルネイ)	1	1
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修 I (ブルネイオンライン)	1	1
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修 II (ブルネイオンライン)	1	1
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修 I (マレーシア)	1	1
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修 II (マレーシア)	1	1
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修 I (マレーシアオンライン)	1	1
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修 II (マレーシアオンライン)	1	1
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修 I (オーストラリアオンライン)	1	1
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修 II (オーストラリアオンライン)	1	1
ヒューマニティーズ	思想・文学	Communication and Mindset in Japanese Society A	1	2
ヒューマニティーズ	思想・文学	Communication and Mindset in Japanese Society B	1	2
ヒューマニティーズ	人間科学	Intercultural Training Methods A	1	1
ヒューマニティーズ	人間科学	Intercultural Training Methods B	1	1
グローバル化と人間社会	グローバル・スタディーズ	Diversity and Social Issues in Japan A	1	1
グローバル化と人間社会	グローバル・スタディーズ	Diversity and Social Issues in Japan B	1	1
グローバル化と人間社会	グローバル・スタディーズ	Communication in Global Context A	1	2
グローバル化と人間社会	グローバル・スタディーズ	Communication in Global Context B	1	2
グローバル化と人間社会	グローバル・スタディーズ	Intercultural Psychology A	1	1
グローバル化と人間社会	グローバル・スタディーズ	Intercultural Psychology B	1	1